

事業内容

対象者		サービス内容	備考
高齢者		特別養護老人ホーム	
		短期入所生活介護	
		通所介護	
子ども	乳幼児	認可保育所	保育所運営費【国、市】
		一時預かり	子育て支援交付金一時預かり事業費【国、市】

利用者の交流について

交流の概要

デイサービス及び特養におけるレクリエーションや伝承遊び・行事などに園児と一緒に参加しています。また、園児の歌や遊戯の発表などを見たりして楽しく交流しています。





交流のメリット

子ども達が近くにいるだけで、高齢者の方々は笑顔になります。子ども達は頭をなでられたり、握手を求められるとうれしくて、いたわりの気持ちを持つ事が出来るようになります。

利用者・家族の声

高齢者の方からは、乳幼児と話したり、一緒に伝承遊びをする事で、尊敬されたり感謝されるのでうれしいという話が聞かれます。また乳幼児の家族からは、核家族が進み高齢者の方と触れ合う機会が無い中で、高齢者の方から沢山誉めてもらいうれしかったと子どもが喜んで話してくれることがうれしいという意見がありました。

施設職員の声

無口で一人寂しく日常を過ごしている高齢者の方も、子ども達が来ると生き生きとする姿がみられます。

◆主体：竹沢積慈会

◆住所：

神奈川県相模原市緑区二本松2-30-41

◆電話：042-773-2515

◆E-MAIL：nihonmatsu_hoikuen@mbn.nifty.com

◆開設時期：

ボーナビール二本松 昭和63年5月

二本松保育園 昭和55年4月

デイケアハウスにぎやか

(富山県富山市)

活動理念・事業内容等について

活動理念

死ぬまで面倒みます
ありのままを受け入れます
いいかげんですんません



開設の経緯

開設者は、理学療法士として施設で勤務していましたが、大規模施設でのケアの限界を感じ、地域で老いることへの援助の方がやりがいがあると考えました。その時に、赤ちゃんからお年寄りまで、障害があってもなくても、誰でも気軽にいつでもいつまでも利用できる「富山型デイサービス」と出会い、自宅を改装して開設しました。現在は、自宅すぐ近くに新しく建築した建物で活動を行っています。

事業内容

対象者	サービス内容	備考	
高齢者	短期入所生活介護		
	宿泊サービス [自主事業]	デイサービス終了後そのまま宿泊するサービス 1,820円～1,890円／1泊	
	通所介護		
	通所サービス [自主事業]	制度外の通所サービス 2,500円／1日 1,500円／半日	
障害者・児	短期入所		
	宿泊サービス [自主事業]	デイサービス終了後そのまま宿泊するサービス 1,820円～1,890円／1泊	
	生活介護、自立訓練(機能訓練、生活訓練)、児童発達支援、放課後等デイサービス		
	通所サービス [自主事業]	制度外の通所サービス 2,500円／1日 1,500円／半日	
子ども	乳幼児	一時預かり型 [自主事業]	制度外の通所サービス 2,500円／1日 1,500円／半日
	学齢児	放課後児童クラブ型 [自主事業]	制度外の通所サービス 2,500円／1日 1,500円／半日

利用者の交流について

交流の概要

スケジュールは決まっていますが、お互いを理解し、一緒に笑う、喜ぶ、楽しむ、怒る、哀しむ、遊ぶ、働く、出かける等、生活の場として過ごしています。

交流のメリット

社会には、いろいろな個性、障害を持った大人、子どもが生活しています。お互いのことをもっと理解し、交流する場が必要であり、各々、役割を持ち、自信をもって生きることが大切であると思います。富山型デイサービスでは、その場を提供することができます。



利用者・家族の声

誰が利用者と誰がスタッフか最初は判らないほど混沌としているが、いろいろな人が一つ屋根の下で一緒に暮らし、過ごすことが楽しい。

施設職員の声

血のつながりは無いが、高齢者、障害者、障害児、乳幼児、スタッフが一緒に過ごすことにより、あたかも大家族のような関係が築かれる。

◆主体：特定非営利活動法人にぎやか
◆住所：
富山県富山市綾田町一丁目10番18号

◆電話：076-431-0466
◆E-MAIL：_bravo@nigiyaka.jp
◆開設：平成9年3月

ふじ保育園・丹南デイサービス センター（福井県鯖江市）

活動理念・事業内容等について

活動理念

「ありがとう」と感謝の気持ちが表現でき「ごめんなさい」と素直に反省できる豊かな情操が培われることを願い、一日の保育生活の中で仏教行事と保育指針を結びつけた「真の保育」を展開します。また、デイサービスに於いては複合施設である利点を存分に生かし、個々のニーズに応じたサービス、並びに充実した温かみのある幼老交流事業を展開することにより、人としての生き甲斐を持ち、より豊かな生活を送ることの援助を目的とします。



開設の経緯

昭和40年代の後半、地域に「工業団地」の進出、それに伴う新興住宅地の増加による核家族化などの要因により、家庭における乳幼児の保育が困難な方たちの声を受け昭和51年4月に保育園を開設しました。その後、時代の流れと共に社会の構造や地域の生活スタイルの変化を考慮し、平成11年の園舎改築を機に、現在の「幼老一体化施設」の開設となりました。